

第4学年 国語科学習指導案

日時 平成20年10月10日（金）5校時

場所 4年教室

児童数 男子2名 女子6名 計8名

指導者 阿部 泰幸

- 1 単元名 場面をくらべて読もう
- 2 教材名 「一つの花」今西 祐行 作
- 3 単元について

(1) 児童について

児童は、4年生になって、物語の学習として「3つのお願い」を学習している。この学習では、叙述をもとに人物の気持ちを想像しながら読むという学習を重点にした。次に「白いぼうし」の学習では、叙述をもとに情景や登場人物の様子を想像する学習をしている。ファンタジー作品を楽しむとともに、叙述をもとに自分の考えをもち、友達と考えを交流させる活動を行った。そして、確かに読み取るために、書く活動として、自分の考えの根拠となった叙述にサイドラインを引いたり、交流のなかでの気づきを書きまとめたりする活動を位置づけた。

はじめは自分の考えの根拠がなく、感覚的に情景や登場人物の様子をとらえている子もいた。しかし、書く活動を指導過程に位置づけたことにより、叙述を根拠に自分の考えを持てるようになってきた。しかし、学習の仕方に慣れず、自分の考えを文や言葉で表すことが苦手な子も数名いる。

このような現状から、書く活動を一つの手だてとして確かに読むことができる子どもを育てていきたいと考える。

(2) 教材について

第3学年および第4学年の「読むこと」の目標は「目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読むことができるようにするとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる」である。本単元では「場面の移り変わりや情景を、叙述をもとに想像しながら読むこと」、「読み取った内容について自分の考えをまとめ、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと」を重点的に取り扱っていく。

本単元「一つの花」は、主人公「ゆみ子」とその家族の戦争中から戦争後にかけてのお話である。作者の思いは、平和への願いと家族愛であることとらえることができる。物語の前半の場面は戦争中、後半は戦争後という構成になっている。前半と後半を対比的にとらえることによって、戦争と平和がもたらすものをとらえることができると考える。また、くりかえし出てくる言葉「一つだけ」に着目し、場面による意味の違いをとらえさせたい。さらに場面による意味の違いをとらえることによって、題名「一つの花」が意味するものをとらえさせることができると考える。

このように本単元「一つの花」は、登場人物の様子や気持ちを場面ごとに比較しながら読み取り、作品の主題に迫るのにふさわしい教材である。さらに交流の中で、自分の考えと友達の考えとの相違点を比較できるように留意していきたい。

(3) 指導にあたって

学習の仕方に慣れず自分の考えを文や言葉で表すことが苦手な子も数名いることや、4年生という発達段階も考慮し、同じ学び方を活用できるような指導過程が必要だと考える。つまり、学び方としての既習事項を何度も活用できるような指導過程を組むこととする。具体的には「つかむ」段階では既習教材として「ちいちゃんのかげおくり」を活用する。次に「ふかめる」段階では本教材「一つの花」を中心教材として取り扱う。さらに「ひろめる」段階では、「むらさき花だいこん」を発展教材として活用することとする。

3つの教材では次のような指導過程を組み、指導にあたることとする。1つ目は物語の全体構成をとらえることである。具体的には、出来事にそって場面を分けたり、登場人物や時代、場所等をとらえたりすることである。2つ目は叙述に即して情景や登場人物の心情をとらえることである。具体的には登場人物の言動や行動、大事な言葉にサイドラインを引いたり、書きこみをしたり、読み取ったことを書きまとめたり、書き換えたりすることである。つまり、叙述をもとに考えたことを書くことである。このことは、「一つの花」の中心的な学習活動になる。3つ目は、場面を対比して読むことである。場面を対比して同じこと、違うことを視点として読み比べることとする。4つ目はさらに場面を対比して、戦争によって奪われるもの、平和によってもたらされるもの、戦争でも奪えないものをとらえることである。

「つかむ」段階では、「一つの花」を学習する前に「ちいちゃんのかげおくり」を活用する。同じ時代背景や作品

に込められた平和への願い等、共通している部分が多い。また戦争中、戦争後等、場面をくらべて読んだり、対比的にとらえたりすることができる作品でもある。よって、既習教材「ちいちゃんのかげおくり」を活用することは、確かに読むことが苦手な子どもにとっても1つの手だてになるのではないかと考える。既習事項を想起しながら、場面对比することを重点的に扱いたい。

「ふかめる」段階では、4つの学び方を活用して進めていくが、叙述に即して情景や登場人物の心情をとらえるための手だてとして書く活動を位置づけることとする。

「ひろめる」段階では、発展教材として「むらさき花だいこん」を活用する。これまでに学習したことや学び方を積極的に試すことができるようにしたい。「むらさき花だいこん」は、大陸に渡った若い日本兵が、中国人の少女からもらった花の種「むらさきだいこん」を、戦争後、平和の願いをこめて一生をかけて日本中にまくという話である。戦争中と戦争後を描いていることや、花に願いを託していること、中心となる人物が兵士だったということ等、「一つの花」と共通している点が多いことから、発展教材に適した物語である。中心教材で身につけた学び方を活用し、学び方の習熟を図るとともに、3つの物語に共通することを考えさせ、児童の戦争や平和に対する考えを深めさせたい。

4 単元の目標と評価規準

主目標	○情景や登場人物の様子を叙述をもとに想像しながら読み、作品に込められた作者の思いを読み取る。	
	目 標	評 価 規 準
関心・意欲・態度	○情景や登場人物の様子を叙述をもとに想像しながら読むことができる。	○情景や登場人物の様子を叙述をもとに想像しながら読もうとしている。
読むこと	◎情景や登場人物の様子を叙述をもとに想像しながら読み、作品に込められた作者の思いを読み取るができる。 ○読み取った内容について、自分の考えと友達の考えの相違点に気づくことができる。	◎情景や登場人物の様子を叙述をもとに想像しながら読み、作品に込められた作者の思いを読み取ろうとしている。([読ウ]) ○読み取った内容について、自分の考えと友達の考えの相違点に気づいている。([読エ])
言語事項	○表現したり理解したりするために必要な語句について、辞書を利用して調べることができる。	○表現したり理解したりするために必要な語句について、辞書を利用して調べている。([言エ(イ)])

5 指導計画 (全12時間)

段階	時間	学習活動	評価規準	書く活動
第一次 つかむ	1	・ 既習教材「ちいちゃんのかげおくり」を読み、これからの学習の見通しをもつ。	・ 既習教材を読み、全体構成をとらえたり、叙述に即して情景や登場人物の心情をとらえたりし、これからの学習の見通しをもっている。	● 場面对比して、戦争によって奪われるもの、平和によってもたらされるもの、戦争でも奪えないものをとらえ、作品の主題を書く。
	2	・ 「一つの花」を読み、初発の感想を書く。	・ 全文を読み、初発の感想を書いている。	● 初発の感想を書く。
	3	・ 物語の全体構成と、大体の内容をとらえる。 ・ 「ちいちゃんのかげ	・ 物語の全体構成と、大体の内容をとらえている。	

		おくり」との共通点，相違点を考える。		
	4	<ul style="list-style-type: none"> 感想を交流し，学習課題を作る。 新出漢字や意味の分からない語句について意味調べをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 進んで学習課題を考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 考えてみたいことを付箋紙に書く。
第二次 ふかめる	5	<ul style="list-style-type: none"> 戦争中の状況とゆみ子が「一つだけちょうだい」という言葉を最初に覚えた理由をとらえる。 	<ul style="list-style-type: none"> 戦争中の生活の厳しさをとらえている。 ゆみ子が「一つだけちょうだい」という言葉を最初に覚えた理由をとらえている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えの根拠になった叙述にサイドラインを引いたり，書き込みをしたりする。 自分の考えの変容や友達の考えとの相違点に気づいて読み取ったことをノートに書きまとめる。
	6	<ul style="list-style-type: none"> ゆみ子の将来を案じるお父さんとお母さんの心情をとらえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ゆみ子の将来を案じるお父さんとお母さんの心情をとらえている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えの根拠になった叙述にサイドラインを引いたり，書き込みをしたりする。 自分の考えの変容や友達の考えとの相違点に気づいて読み取ったことをノートに書きまとめる。
	7	<ul style="list-style-type: none"> 戦地に出向くお父さんの状況と心情をとらえる。 	<ul style="list-style-type: none"> 戦地に出向くお父さんの状況と心情をとらえている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えの根拠になった叙述にサイドラインを引いたり，書き込みをしたりする。 自分の考えの変容や友達の考えとの相違点に気づいて読み取ったことをノートに書きまとめる。
	8	<ul style="list-style-type: none"> お父さんがゆみ子にコスモスの花をあげた心情をとらえる。 	<ul style="list-style-type: none"> お父さんがゆみ子にコスモスの花をあげた心情をとらえている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えの根拠になった叙述にサイドラインを引いたり，書き込みをしたりする。 自分の考えの変容や友達の考えとの相違点に気づいて読み取ったことをノートに書きまとめる。
	9 本時	<ul style="list-style-type: none"> 十年後のゆみ子とゆみ子を取り巻く状況の変化を，戦争中の場面と対比してとらえ，ゆみ子の家族の心情をとらえる。 	<ul style="list-style-type: none"> 十年後のゆみ子とゆみ子を取り巻く状況の変化を，戦争中の場面と対比してとらえ，ゆみ子の家族の心情をとらえている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えの根拠になった叙述にサイドラインを引いたり，書き込みをしたりする。 自分の考えの変容や友達の考えとの相違点に気づいて読み取ったことをノートに書きまとめる。
	10	<ul style="list-style-type: none"> 題名に込められた作者の思いをとらえ，「一つの花」に対する自分の考えを深める。 	<ul style="list-style-type: none"> これまで場面ごとに読み深めてきたことを手がかりに，題名に込められた作者の思いをとらえている。 	<ul style="list-style-type: none"> これまで場面ごとに読み深めてきたことを根拠に，自分の考えを書く。 自分の考えの変容や友達の考えとの相違点に気づいて読み取ったことをノートに書きまとめる。

				● 場面を対比して，戦争によって奪われるもの，平和によってもたらされるもの，戦争でも奪えないものをとらえ，作品に込められた作者の思いを書く。
第三次	1 1	・ 学習した学び方を活用し，「むらさき花だいこん」を読む。	・ 全文を通読し，初発の感想を書いている。 ・ 物語の全体構成と，大体的内容をとらえている。	● 初発の感想を書く。
ひろめる	1 2	・ 学習した学び方を活用し，「むらさき花だいこん」を読み，三つの物語の共通点，相違点をとらえる。	・ 三つの物語の共通点，相違点をとらえている。	● これまで読み取ってきたことをもとに，共通点や相違点について自分の考えを書く。 ● 自分の考えの変容や友達の考えとの相違点に気づいて読み取ったことをノートに書きまとめる。 ● 場面を対比して，戦争によって奪われるもの，平和によってもたらされるもの，戦争でも奪えないものをとらえ，作品に込められた作者の思いを書く。

6 本時の指導（9 / 1 2）

（1）目標

十年後のゆみ子とゆみ子を取り巻く状況の変化を戦争中と比べながら読み，ゆみ子の家族の心情を想像する。

（2）授業仮説

十年後のゆみ子とゆみ子を取り巻く状況が分かる叙述やこれまでに書きまとめたものを根拠にし，ゆみ子の家族の心情を読み取るために書く活動を位置づければ，ゆみ子の家族の心情を想像することができるであろう。

（3）展開

段階	学習活動	支援と評価
つかむ	1 既習教材の「ちいちゃんのかげおくり」を想起し，「一つの花」との違いをとらえる。 2 学習課題を確認する。	・ 「ちいちゃんのかげおくり」と「一つの花」の最後の場面を比べて，印象的なのはどちらですか」と問いかけることで既習学習と本時の学習をつなげる。
5分	十年後のゆみ子の家族は幸せかどうか考えよう。	・ ゆみ子が幸せかどうかと問うよりも，ゆみ子の家族は幸せかどうかと問うことを学習の課題とすることで，多面的に場面の様子をとらえさせたい。 ・ 読みの視点として前時までに学習した戦争中（ <u>1</u> ）～（ <u>4</u> ）と，本時の戦争後（ <u>5</u> ）の違いを，比べて読んでいくことをとらえる。

ふかめる

3 学習場面を音読する。

4 学習課題を解決する。

(1) 自分の考えをもつ。

○ ゆみ子の家族は幸せですか、不幸せですか、**5**の場面の根拠になる部分にサイドラインを引きましょう。

・ **1**~**4**の場面やこれまでの学習で書きまとめたものを参考にしながら、ゆみ子の家族は幸せかどうか、自分の考えをノートに書く。

(2) 意見を交流する。

○ ゆみ子の家族は幸せですか、不幸せですか？

< 幸せ >

● **平和な世の中**になったのでゆみ子とお母さんは幸せ

・ 「一輪のコスモスの花」

→ 「コスモスの花でいっぱいに包まれています」

・ 「ばくだんを落としていきました」

→ 「ミシンの音」→ 「今日は日曜日」

● **食べ物を選ぶことができる世の中**

● **買い物ができる自由な世の中**になったのでゆみ子とお母さんは幸せ

・ 配給 → 「『母さん、お肉とお魚とどっちがいいの』」

● **自由や喜びがある**のでゆみ子は幸せ

→ 「買い物かごをさげたゆみ子が、スキップをしながら、コスモスのトンネルをくぐって出てきました。そして、町の方へ行きました。」

→ 「今日は日曜日、ゆみ子が小さなお母さんになって、お昼を作る日です。」

● **ゆみ子がお手伝いをしてくれる**のでお母さんは幸せ

→ 「今日は日曜日、ゆみ子が小さなお母さんになって、お昼を作る日です。」

・ 戦争中の場面と比べて、十年後のゆみ子の家族が幸せかどうか分かるところを考えながら音読をさせる。

・ 叙述をもとに考えさせるために、**5**の場面で戦争後のゆみ子の家族が幸せかどうか分かる叙述にサイドラインを引かせる。

・ 前時までにとらえた戦争中の叙述や書きまとめたものを根拠にしながら自分の考えをもたせる。

● 自分の考えの根拠になった叙述にサイドラインを引く。

● 戦争中と戦争後の違いを比べて、ゆみ子がどんな子に成長したのか、自分の考えを書く。

(読) 叙述をもとに、場面の様子の違いをとらえ、自分の考えをもつことができたか。(観察・ノート)

・ 「なぜそう思うのか」、「本文のどこからそう思うのか」等の自分の考えの根拠を発表させる。

・ 自分の考えと友達の考えの相違点に気をつけて発表を聞かせる。

・ ただ単に自分の考えを発表させるのではなく、相違点をもとに友達の考えに関連させていくようにする。

・ 平和によってもたらされたものからゆみ子の家族が幸せかどうかとらえさせる。

・ **2**の場面お父さんが心配していた「いや、喜びなんて、一つだってもらえないかもしれないんだね」という部分と、**5**の場面「買い物かごをさげたゆみ子が、スキップをしながら、コスモスのトンネルをくぐって出てきました。」という部分を対比させ、喜びをもって生きている子になったことをとらえさせる。

・ 平和な世の中になって、お父さんはいなくとも、お母さんのお手伝いをするようなやさしい子になったことをとらえさせる。

30分

<不幸せ>

●戦争で家をなくしたのでゆみ子とお母さんは不幸せ

→「ゆみ子のとんとんぶきの小さな家」

●お母さんがいそがしく働いているのでゆみ子とお母さんは不幸せ

→「ミシンの音が、たえず速くなったりおそくなったり、まるで、何かお話をしているかのように、聞こえてきます。」

●お父さんを知らないのでゆみ子は不幸せ

→「お父さんの顔を覚えていません。自分にお父さんがあったことも、あるいは知らないのかもしれない。」

●戦争から帰って来ないのでゆみ子の家族は不幸せ

○平和によってもたらされたもの、戦争によって奪われたものは何でしょう。

→自由や喜び。

→命の安全

○戦争でも奪えないものは何でしょう。

→親の子どもに対する愛情

→平和への願い

・戦争によって奪われたものからゆみ子の家族が幸せかどうかとらえさせる。

・平和な世の中になってもお母さんが生活のために忙しかったり、お父さんが戦争に行き帰って来なかったりした点について、ゆみ子の家族は幸せかどうか考えさせる。

・ゆみ子の家族は幸せかどうかという視点での話し合いをまとめる。

・「平和によってもたらされたもの」、「戦争によって奪われたもの」、「戦争でも奪えないもの」は、話し合いの中から自然に引き出したい。

まとめ

5 学習のまとめをする。

(1) 課題に対する本時のまとめを書きまとめる。

(2) 書きまとめたものを交流する。

・交流の中で気付いたことに留意しながら、課題に対する本時のまとめを自分の言葉で書きまとめる。

●自分の考えの変容や友達の考えとの相違点に気づいて読み取ったことをノートに書きまとめる。

(読)交流の中で自分の考えの変容に気づいて、課題に対する本時のまとめを書きまとめているか。

(ノート, 発表)

・平和によってもたらされるものは、自由であり、生活に喜びがあることに気付かせる。

・戦争によって奪われたものは、自由や命であることを気付かせる。

・戦争でも奪えないものは親の愛情や家族愛であることに気付かせる。

10分

6 次時の学習内容を知る。

(4) 具体的評価基準と指導の手だて

観 点	A	B	Bに至らせるための手だて
読みの能力	・ 十年後のゆみ子と、ゆみ子を取り巻く状況の変化を、戦争中と比べながら読み、ゆみ子の家族の心情を読み取り、戦争でも奪えないものについてとらえている。	・ 十年後のゆみ子と、ゆみ子を取り巻く状況の変化を、戦争中と比べながら読み、ゆみ子の家族の心情を読み取っている。	・ 既習事項を想起させるために学び方を具体的に提示したり、板書に着目させることによって自分の考えをもたせる。

7 板書計画

一つの花

課題

十年後のゆみ子の家族は幸せかどうか考えよう。

読みの視点

○戦争中と戦争後の場面の違いををくらべて読む

幸 せ

戦争中

平和な世の中になった

「一輪のコスモスの花」↓「コスモスの花でいっぱいに包まれています。」

「ぼくだんを落としていきました」↓「ミシンの音」

↓「今日は日曜日」

戦争後

食べ物を選ぶことができる世の中・買い物ができる自由な世の中

配給↓『母さん、お肉とお魚とどっちがいいの』

喜びをもっている子

↓「買い物かごをさげたゆみ子が、スキップをしながら、コスモスのトンネルをくぐって出てきました。」

「今日は日曜日、ゆみ子が小さなお母さんになって、お昼を作る日です。」

不 幸 せ

戦争で家をなくした

↓「ゆみ子のとんとんぶぎの小さな家」

いそがしく働くお母さん

↓「ミシンの音が、たえず速くなったりおそくなったり、

まるで、何かお話をしているかのように、聞こえてきます。」

戦争から帰って来ない

お父さんを知らない子

↓「ゆみ子は、お父さんの顔を覚えていません、

自分にお父さんがあったことも、あるいは知らないのかもしれない。」